

ナンバリング			授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式					
M212P108			看護の対象論 (Introduction to human being and human health)								対面					
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態					
必修		1	1	医学部看護学科	通年		日本語				複数(共同)					
担当教員	氏名 清村紀子、原田千鶴（非常勤講師）、内川洋子、佐藤祐貴子、佐藤佑佳、廣田美咲															
	E-mail kmnoriko@oita-u.ac.jp 内線 5032															
授業の概要	本科目は「看護学概論」とともに、看護学を学ぶにあたっての導入科目の位置づけにあり、「人間とは何か」を中心的問いとして、人間とその生活の営み、及び看護における人間の捉え方について考究していく。また、家族・地域・集団・組織の中に存在する個人の多様な価値観とその背景を踏まえ、固有の「ライフプロセス」の中で環境と相互作用しながら生活を営む生活統合体としての「人間とは」を探求することを通して、看護専門職者として対象理解を深めることをねらいとする。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	人間の生活に関連した概念について説明できる									○					○	○
目標2	人間の生活行動の動因となるニードについて説明できる									○					○	○
目標3	成長・発達の視点からとらえた人間のライフサイクルについて説明できる									○					○	○
目標4	人間を捉える看護の具体的な枠組みとしての「ゴードンの機能的健康パターン」とその営みについて説明できる									○					○	○
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度（計10）										6					2	2
授業の内容																
1	前期 コースオリエンテーション															
2	前期 生活とは、生活するとは：生活の定義・成り立ち（生活構造）、環境との相互作用															
3	前期 生活の具現的な営みである生活行動とその動因：生活行動とニード生活行動とニード															
4	前期 日々の営みである「生活」を積み重ねる：ライフサイクル、成長・発達															
5	後期 看護の対象を捉える：ゴードンの機能的健康パターン：ゴードンの機能的健康パターンの概観															
6	後期 看護の対象を捉える：ゴードンの機能的健康パターン：ゴードンの機能的健康パターンの概観															
7	後期 看護の対象を捉える：ゴードンの機能的健康パターン：ゴードンの機能的健康パターンの概観															
8	後期 まとめ：授業のまとめ															
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認		○ 日々の課題学修、単元毎の小テスト、ポートフォリオ作成				工夫その他の	LMS、動画								
	B:意見の表現・交換		○ 発問、ディスカッション、ブレインストーミング、コンセプトマップ					* Moodleを活用								
	C:応用志向		チーム演習													
	D:知識の活用・創造															
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		授業資料・教科書での予習（毎回1h:計12h）、ディスカッションの準備（毎回0.5h：計6h）													
	事後学修		授業内容の復習（毎回1h:計12h）、学修テーマに即した課題（各1h：計5h）													
	想定時間合計		35													
教科書	看護学概論教科書と同じ：志自岐靖子編 ナーシンググラフィカ基礎看護学 看護学概論 メディカ出版 ISBN978-4-8404-7535-8 Marjory Gordon、江川隆子監訳（2006）：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針—よくわかる機能的健康パターン、照林社 ISBN4-7965-2124-0															
参考書	開講時に提示															

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	課題レポート	70%	○	○	○	○						
	学修貢献度	30%	○	○	○	○						
注意事項	本科目は、看護学を学ぶにあたっての学問的素地を培っていくための科目で、看護が関心を向ける「人間」・「生活」について熟考していく科目である。看護実践としての「生活行動を支援する」ための対象理解に活かされること、並びに、「看護とは何か」の問いを探究し続ける第一歩となることを期待している。											
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	清村（救急・重症集中ケア領域での看護師としての臨床経験）・内川洋子・佐藤祐貴子・佐藤佑佳・廣田美咲（看護師臨床経験）											
教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	○											
教員以外の 指導に関わる 実務経験者	原田（国内外での看護師、管理者）											
実務経験を いかした教育内容	看護の場で療養生活を送る対象者について、生活者としてのその人を捉え、その人にとっての安全で安楽でその人らしい生活を営むことができるよう支援するための基本となる対象理解について学ぶ。											